

Game Report

開催場所：九州共立大学 鶴鳴記念館

試合区分：第 23 回全九州大学バスケットボールリーグ戦 男子 1 部

試合期日：2016 年 9 月 11 日 (日)

試合時間：17:20~

主審：古後 宏和

副審：上野山 靖

東海大学九州	○ 90	15	—1st—	17	● 86	九州産業大学
		26	—2nd—	20		
		26	—3rd—	15		
		23	—4th—	34		

第 1 ピリオド

開始直後から、東海大は #6 小澤が立て続けに 3P シュートを決め主導権を奪いにかかる。東海大は #7 林と #23 趙の合わせのプレイで、相手ディフェンスを翻弄し得点を重ね、九産大のミスから攻撃を展開し、#23 趙のバスケットカウントで一気に波に乗る。このまま東海大が優位かに思われたが、途中出場の九産大 #32 橋口が試合の流れを一変させる。#32 橋口の 3P シュートから流れに乗った九産大は、激しいディフェンスで東海大のミスを誘いスティールから得点を奪う。そのまま勢いづいた九産大は、残り 4 分間、東海大を無得点に抑え、15-17、九産大 2 点リードで第 1 ピリオド終了。

第 2 ピリオド

流れを変えたい東海大は、序盤から #21 谷里が果敢にリングを狙い、ジャンプショットや 3P シュートで逆転に成功する。残り 7:29、九産大はタイムアウトを請求し立て直しを図る。直後、#29 舟越の合わせのシュートや #32 橋口の 3P シュートで九産大ペースかと思いきや、東海大は #5 北原、#21 谷里、#7 林の 3 連続 3P シュートで再度流れを引き寄せた。その後は互いに一進一退の白熱した攻防を繰り広げ、41-37、東海大が 4 点リードで勝負は後半へ。

第 3 ピリオド

前半と打って変わり、東海大ペースで試合は展開される。ディフェンスリバウンドから素早い攻撃で、#8 佐竹や #21 谷里が得点し、徐々にリードを広げる。対する九産大は、得点できない苦しい展開が続く。終盤、九産大は #11 金丸が 3P シュートやバスケットカウントで点差を詰めると、終了間際、相手のミスからブレイクで九産大 #47 宮崎が得点しブザーが鳴る。67-52、安定して得点を重ねた東海大が 15 点とリードを広げ、勝負は最終ピリオドへ。

第 4 ピリオド

最終ピリオドも白熱した点取り合戦が繰り広げられる。中盤、九産大 #29 舟越が意地を見せ、怒涛の連続ポイントで東海大に詰め寄ると、#32 橋口が 3P シュートを立て続けに決め、点差を一桁にする。流れは九産大かと思われたが、東海大 #2 長野がドライブで攻め込み、試合を決定づける。最後まであきらめない姿勢を見せた九産大だったが、試合終了。90-86 で、東海大が点取り合戦を制し、勝利を手にした。